

QL Firmware 主なアップデート内容

V5.10

V5.10 の新機能

- DANTE I/O DEVICE としてサポートする機種を追加しました。

[対応機種はこちら\(PDF\)](#)

- アンプ(NEXO NXAMPmk2*)、パワードスピーカー(Yamaha DZR-D シリーズ、DXS XLF-D シリーズ)をリモート操作できるようになりました。

* CL/QL シリーズから NXAMPmk2 をリモート操作するために下記の設定が必要です。

- NXAMPmk2 のファームウェアを LOAD4_21 以降にアップデートする。
- NXAMPmk2 に標準カード(NXRM104)、または Dante カード(NXDT104mk2)を装着する。

V5.10 の改善点

- USER DEFINED キーで割り当てた MIDI メッセージのノートオンが出力されているときに、シーンが更新されるとノートオフが出力されていました。そのノートオフが出力されないように変更しました。
- 一部部品の生産終了に伴う Dante モジュールのハードウェア変更への対応をしました。

V5.10 で修正した不具合

- コンソールの電源投入時に、DANTE SETUP 内の DEVICE MOUNT 画面にて CL/QL にマウントした対応 Dante 機器がまれに正常にオンラインでマウントされないことがある不具合を修正しました。

V5.01 で修正した不具合

- REMOTE HA ASSIGN 画面で、下記 I/O デバイスで WITH RECALL を OFF にしてマウントしている場合に、[#1]にマウントしているデバイスのチャンネル 1 の HA パラメーターが初期値にリセットされる不具合を修正しました。
 - Tio1608-D
 - Focusrite 製「RedNet 4」「RedNet MP8R」
 - Rupert Neve Designs 製「RMP-D8」
- MIDI Control Change や MIDI Parameter Change の受信と同時にフェーダーやエンコーダーノブを手動で連続操作していると、コンソールが MIDI メッセージを受信しないことがある不具合を修正しました。

V5.00 の新機能

- DANTE I/O DEVICE としてサポートする機種を追加しました。
- シーンをリコールするときに、チャンネルごとのフェードタイムを個別に設定する INDIVIDUAL FADE TIME に対応しました。
- プレミアムラックのデバイスに Portico5045(プライマリーソースエンハンサー)を追加しました。

V5.00 の改善点

- Channel Name Display のコントラストの基準値を変更しました。見え方が変わったと感じたお客様は SETUP メニューより調整ください。

V5.00 で修正した不具合

- コンソールの電源投入時、シーンリコール時、またはファイルロード時に R-Series (Rio/Ri/Rio-D2) に割り当てた一部の INPUT チャンネルの HA パラメーターが R-Series 側の現在値に戻される不具合を修正しました。
- Rio3224-D2/Rio1608-D2 を複数台マウントしたときに、HA の操作が遅延する不具合と「No Response from I/O DEVICE」のエラーが出る不具合を修正しました。
- Rio3224-D2/Rio1608-D2 で電源リダンドのエラーが発生したときに、それらの機器をマウントしている CL/QL 上の SYSTEM/SYNC エラーメッセージが"DANTE SETTING MISMATCH"と誤表示される不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

既知の不具合

- コンソールを他の Dante 機器と同時に起動したときに、まれに「NETWORK AUDIO MODULE FAILED. PLEASE RESTART THE CONSOLE」が表示されることがあります。その場合はコンソールを再起動してください。
- CL/QL Firmware V4.00 およびそれ以降のバージョンにおいて、MIDI Control Change の受信による Specific CUE, Clear CUE 等の CUE の制御ができない問題が見つかりました。CL/QL コンソールの CUE の操作による MIDI Control Change の出力には問題ありません。

暫定回避策

MIDI Parameter Change の受信による CUE 機能の制御は可能です。

この問題は V5.10 の次のバージョンで修正予定です。

- Dante Controller で QL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で QL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが QL シリーズからできません
- CL シリーズの V1.15 までのバージョンで作成されたファイルを QL シリーズでロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じてマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

お知らせ

- CL/QL/RIVAGE PM10/PM7 コンソール、R Remote から下記の各機器をリモートコントロールすることができます。同時に各機器をリモートコントロールできる CL/QL/RIVAGE PM10/PM7 コンソール、R Remote の台数は次のとおりです。
 - RMio64-D/RSio64-D/Tio1608-D(V1.04 以降): 最大 4 台の CL/QL、あるいは 6 台の R Remote
 - Rio/Ri/Ro/Rio3224-D2/Rio1608-D2: 最大 4 台の CL/QL/RIVAGE PM10/PM7+別途 6 台の R Remote
- MonitorMix は最大 10 台まで接続できます。
- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- コンソールなどから SUPPORTED DEVICE として認識できるようにするためにはデバイスラベルの先頭に Y###-(###は0～F までの 16 進数)という五文字の識別番号が必要です。
 - ヤマハ製 Dante 対応機器ではデバイス IDなどを参照して自動的に付与されます。(AIC128-D など一部製品では手動設定が必要です。)

- Dante-MY16-AUD2 を含む Dante 対応サードパーティ製品では手動で設定する必要があります。
- Shure 社製ワイヤレスレシーバーについてはセットアップガイドを確認のうえ設定してください。
- デバイスラベルの制限
 - Y###-*****
 - # は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)
 - * は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)
 - Y を含めて 31 文字まで対応しています。
 - R シリーズについては Y###-で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。
- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、シーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。
 - ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。
 - CL シリーズの V1.70 以前で保存した ALL データを QL シリーズでロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーフをかけておくことをおすすめします。
- CL V2.xx、CL/QL V3.xx、V4.xx、V5.xx ファームウェア対応のファイルコンバーターV5.0.0 を用意しています。

V5.01

V5.01 で修正した不具合

- REMOTE HA ASSIGN 画面で、下記 I/O デバイスで WITH RECALL を OFF にしてマウントしている場合に、[#1]にマウントしているデバイスのチャンネル 1 の HA パラメーターが初期値にリセットされる不具合を修正しました。
 - Tio1608-D
 - Focusrite 製「RedNet 4」「RedNet MP8R」

- Rupert Neve Designs 製「RMP-D8」
- MIDI Control Change や MIDI Parameter Change の受信と同時にフェーダーやエンコーダーノブを手動で連続操作していると、コンソールが MIDI メッセージを受信しないことがある不具合を修正しました。

V5.00 の新機能

- DANTE I/O DEVICE としてサポートする機種を追加しました。
- シーンをリコールするときに、チャンネルごとのフェードタイムを個別に設定する INDIVIDUAL FADE TIME に対応しました。
- プレミアムラックのデバイスに Portico5045(プライマリーソースエンハンサー)を追加しました。

V5.00 の改善点

- Channel Name Display のコントラストの基準値を変更しました。見え方が変わったと感じたお客様は SETUP メニューより調整ください。

V5.00 で修正した不具合

- コンソールの電源投入時、シーンリコール時、またはファイルロード時に R-Series (Rio/Ri/Rio-D2) に割り当てた一部の INPUT チャンネルの HA パラメーターが R-Series 側の現在値に戻される不具合を修正しました。
- Rio3224-D2/Rio1608-D2 を複数台マウントしたときに、HA の操作が遅延する不具合と「No Response from I/O DEVICE」のエラーが出る不具合を修正しました。
- Rio3224-D2/Rio1608-D2 で電源リダダントのエラーが発生したときに、それらの機器をマウントしている CL/QL 上の SYSTEM/SYNC エラーメッセージが「DANTE SETTING MISMATCH」と誤表示される不具合を修正しました。
- その他の軽微な不具合を修正しました。

既知の不具合

- コンソールを他の Dante 機器と同時に起動したときに、まれに「NETWORK AUDIO MODULE FAILED. PLEASE RESTART THE CONSOLE」が表示されることがあります。その場合はコンソールを再起動してください。
- CL/QL Firmware V4.50, V4.51, V5.00, V5.01 に対応する Dante Firmware 4.0.8.2-4.0.3.7-2.0.1 および 4.0.8.2-4.0.3.7-2.0.6 において発生する不具合が確認されました。

コンソールの電源投入時に、DANTE SETUP 内の DEVICE MOUNT 画面にて CL/QL にマウントした対応 Dante 機器がまれに正常にオンラインでマウントされないことがあります。

オフライン中はコンソールからの Dante パッチ設定や HA パラメーターの調整ができません。コンソールの電源投入後、数分が経過しても DEVICE MOUNT 画面にて該当の I/O デバイスが VIRTUAL 表示のままになっている場合はコンソールの再起動をお願いいたします。この問題は次期 Dante Firmware にて修正される予定です。

- Dante Controller で QL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で QL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが QL シリーズからできません。
- CL シリーズの V1.15 までのバージョンで作成されたファイルを QL シリーズでロードすると、接続していた R シリーズ以外の Dante 機器のマウント情報を引き継ぎません。DANTE INPUT PATCH LIBRARY をリコールしても同様です。必要に応じてマウントやパッチ、DANTE INPUT PATCH Library を設定しなおしてください。

お知らせ

- CL/QL コンソール、R Remote から下記の各機器をリモートコントロールすることができます。同時に各機器をリモートコントロールできる CL/QL コンソール、R Remote の台数は次のとおりです。

RSio64-D/Tio1608-D: 最大 2 台の CL/QL/R Remote

Rio/Ri/Ro: 最大 4 台の CL/QL+別途 2 台の R Remote

Rio3224-D2/Rio1608-D2: 最大 4 台の CL/QL+別途 5 台の R Remote

- MonitorMix は最大 10 台まで接続できます。
- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- 以下のデバイスラベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。(Dante 非対応モデルは除く)

Y###-*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字) の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン) が使用可)

Y を含めて 31 文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###- で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。

- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、シーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。

ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。

CL シリーズの V1.70 以前で保存した ALL データを QL シリーズでロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーフをかけておくことをおすすめします。

- CL V2.xx、CL/QL V3.xx、V4.xx、V5.xx ファームウェア対応のファイルコンバーターV4.0.0 を用意しています。

V4.50

V4.50 の新機能

- Dante Domain Manager に対応しました。
- Rio3224-D2、Rio1608-D2 に対応しました。

V4.50 の改善点

- Dante のステータス表示を改良しました。
- シーンリコールすると閉じていたプレミアムラックのエディット画面が、同じモジュールを選択しているシーンのリコールでは閉じなくなりました。

V4.51 の改善点

- Dante Virtual Soundcard (DVS) V4.0.3.1 以降をサポート機器 (SUPPORTED DEVICE)として認識するように改善しました。

V4.50 で修正した不具合

- 特定の条件下で Dante ネットワークの構成を変更すると、エラーメッセージが表示されて本体の再起動が必要になる不具合を修正しました。
- MATRIX 7/8 にセンドしている INPUT BUS/MIX BUS を DCA ミュートしているときに、ミュート中のチャンネル ON/OFF や CUE を操作すると一瞬ユニティーレベルで音声信号が出力される不具合を修正しました。
- プラグインの OpenDeck が初期設定で音が出ない不具合を修正しました。
- V4 以前で作られた EQ Library を読み込むと、High バンドのゲインが 0dB になる不具合を修正しました。
- EQ の Band Bypass を変更したときに、オーバービューの EQ グラフに反映されない不具合を修正しました。
- BUS SETUP でステレオに設定されている MIX BUS などに対して、RECALL SAFE などの機能にある CH LINK でオフセットが掛かっていると、StageMix が同期できなくなる不具合を修正しました。
- V4.1 でクロックを Dante から外部入力に切り替えたときに、クロックが INT48K になってしまう不具合を修正しました。
- UNIT ID と SECONDARY を同時に変更すると、設定変更が終了できなくなる不具合を修正しました。
- USB メモリーの挿入時、接触不良などによる誤認識で、CL/QL 本体が不適切な状態になることがある不具合を修正しました。
- “No response from I/O device” メッセージが誤って表示される不具合を修正しました。
- CUE B を Remote モードに設定しているときに、本体の CUE CLEAR が CUE B もクリアしてしまう不具合を修正しました。
- RECORDER 画面を閉じているときに、USER DEFINED KEY 設定した[Next][Prev]が動作しない不具合を修正しました。

V4.51 で修正した不具合

- QL V4.50 において、A/B SEL キーを押しながら電源起動による Dante モジュールを含む初期化を実施した直後に、コンソールから Dante I/O 機器 (Dante Virtual Soundcard 含む) の Dante Input/Output Patch が正常に行われないことがある不具合を修正しました。

V4.10

- 各機器をリモートコントロールできる台数は次のとおりです。

RSio64-D/Tio1608-D: 最大 2 台の CL/QL/R Remote

RMio64-D: 最大 6 台の CL/QL/R Remote

Rio/Ri/Ro: 最大 4 台の CL/QL+別途 2 台の R Remote

- MonitorMix は最大 10 台まで接続できます。

V4.10 の新機能

- オーディオネットワークの相互接続規格「AES67」に対応しました。
- Dante Device Lock に対応しました。
- Dante 接続非対応の Shure 社 AXT400、QLXD4、ULXD4 のデバイスコントロールができるようになりました。
- DHCP や STATIC IP をリモートコントロール用に設定できるようになりました。

ただし、デバイスコントロール用の IP アドレスは、ミキサーコントロール用 IP アドレスと異なるサブネットに設定してください。同一サブネットに設定するとデバイスコントロール/ミキサーコントロールは使用できません。

- Audinate 社 Dante-MY16-AUD2 と d&b audiotechnik 社 DS10 を新たにサポートしました。

Dante Controller で以下のようにデバイラベルをつけることで、SUPPORTED DEVICE として認識します。

Y###-*****

#は UNIT ID で、0 ~ 9、A ~ F(大文字) の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF) * は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン) が使用可)

- EQ タイプを全チャンネルで一括して設定できるようになりました。
- RSio64-D に挿入されている Mini-YGDAI カード MY8-AE96S の内蔵サンプリングレートコンバーターのステータス表示をするようになりました。

V4.10 の改善点

- チャンネルカラー選択ボタンにカラーネームも表示するようになりました。
- Dante ネットワークがギガビットイーサネットとしてリンクしていないときに、LCD 下部にメッセージが表示されるようになりました。
- パネルとタッチスクリーンで EQ バンド選択がリンクするようになりました。
- RTA の画面でスケール変更とオフセットゲイン追加により、周波数解析表示の視認性が向上しました。
- PATCH/NAME 画面や CH SELECT 画面、PORT SELECT 画面で、チャンネルネームやエフェクトタイプ名が表示されるようになりました。
- PRECISE タイプの EQ で Q ノブの押し回しで、シェルビングタイプ、フィルターへ切り替えできるようになりました。

- フェーダーキャリブレーションの 0dB 位置での補正範囲を広げました。

V4.10 で修正した不具合

- RSio64-D がマウントされていないときに、マウントされた状態のコンソールファイルをロードすると、デバイス情報を正しく取得できず、ユーザーパッチが初期化される不具合を修正しました。
- 31Band GEQ のリンク設定を解除したときに、隣接したラックのリンク設定も解除される不具合を修正しました。

V4.04

V4.04 で修正した不具合

- Shure 社 ULXD レシーバーで L53 バンドのコントロール&モニタリングに対応しました。
- PREMIUM RACK の EQ-1A をご使用時に、LO BOOST パラメーター操作によるノイズ、および特定の条件においてミュートがごく稀に発生することある不具合を修正しました。
- CL/QL シリーズから Tio1608-D の HA コントロールができなくなることがある不具合を修正しました。
- コンソール以外でシーンリコールすると、パネルのチャンネル ON キー表示が正しく更新されない不具合を修正しました。

V4.02

V4.02 で修正した不具合

- Shure ULXD レシーバー接続時に発生する以下の不具合を修正しました。
 - 旧 A 帯、B 帯 モデルではコンソールと接続した時に、レシーバーLCD の GROUP/CH 表示が非設定になる。
 - P51 バンド(ドイツおよび中国のみ)の 710~770MHz の周波数を使用しているとコンソール接続時に受信周波数が変更される。
- FOCUS がオフで DCA の LEVEL/ON もオフに設定したシーンをリコールすると、DCA フェーダー位置が正しくリコールされない不具合を修正しました。

V4.01

V4.01 で修正した不具合

- 特定の条件で「パネル上のフェーダーを操作しても値が変化しない」不具合を修正しました。

- QL V1.0x、CL V1.70/V2.0x で作成された Scene データが、Out of Range の表示が出てロードできない不具合を修正しました。

V4.00

- 各機器をリモートコントロールできる台数は次のとおりです。

RSio64-D/Tio1608-D: 最大 2 台の CL/QL/R Remote

RMio64-D: 最大 6 台の CL/QL/R Remote

Rio/Ri/Ro: 最大 4 台の CL/QL+別途 2 台の R Remote

- MonitorMix は最大 10 台まで接続できます。

V4.00 の新機能

- チャンネル EQ に新アルゴリズム「Precise」「Aggressive」「Smooth」を追加しました。
- Premium Rack に新デバイス「MBC4」(マルチバンドコンプレッサー)を追加しました。
- Shure 社のデジタルワイヤレスレシーバー「ULXD4D」「ULXD4Q」のコントロール&モニタリングに対応しました。
- Solo Mode を追加し、CUE キーを使ったインプット/アウトプットのソロ機能に対応しました。
- Second Cue Bus 機能を追加し、MATRIX バス 7/8 を CUE B バスとして使えるようになりました。
- iPhone アプリケーション「MonitorMix」に対応しました。最大 10 台までを同時に使用して、各演奏者が手元で好みのモニターミックスバランスに調整できます。
- [TOUCH AND TURN]ノブを使って GEQ のゲインを調整できるようになりました。
- I/O ラック Tio1608-D の HA コントロールに対応しました。
- DYNAMICS1 の COMPRESSOR、EXPANDER が、Key In Filter に対応しました。
- FOCUS RECALL/RECALL SAFE/GLOBAL PASTE に、MUTE GROUP ASSIGN、BUS SETUP、SURROUND SETUP の項目を追加しました。また、対象となる TO ST のパラメーターに、各インプットチャンネルの LR ノミナル設定を追加しました。
- QL の FADER BANK A の MASTER 部をカスタムフェーダーとして使用できるようになりました。
- サポートする Dante 機器として、AVIOM D400、Yamaha MRX7-D を追加しました。

V4.00 の改善点

- FILE LOAD 時に、それぞれのカテゴリーにメモリーされている内容が、その仕様になった時のバージョンを表示するようになりました。

- LAST CUE 時も MIX CUE と同様に、OUT や DCA IN とスタックできるようになりました。

V4.00 で修正した不具合

- Buss Comp 369 の Library Recall 時に、SCENE 000 の Data を MIDI 送信していた不具合を修正しました。
- CH LINK を設定しているチャンネルで CH MOVE を実行したときに、そのリンク設定にかかわらず LINK A のリンク設定でパラメーターが変更されてしまうことがある不具合を修正しました。

既知の不具合

- RSio64-D がマウントされていないときに、マウントされた状態のコンソールファイルをロードすると、デバイス情報を正しく取得できず、ユーザーパッチが初期化されます。
- QL V1.00、CL V1.70/V2.00 で作成された Scene データは、V4.00 では Out of Range の表示が出てロードできません。これらのデータは、あらかじめ V3.11 の本体または V3.10 のエディターで一旦データファイルを保存しなおしてからご使用ください。
- Dante Controller で QL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で QL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが QL シリーズからできません。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- 以下のデバイスラベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。

Y###-*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字)の16進数3桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字または小文字)、数字、-(ハイフン)が使用可)

Y を含めて 31 文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###-で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。

- QL V1.08 以降ファームウェアにて、Port to Port 機能を利用して QL シリーズ内蔵 HA を R シリーズのように外部 QL シリーズまたは CL シリーズ(ファームウェア V2.03 以降)からコントロールする場合は、以下の点にご注意ください。

- 内蔵 HA を外部コンソールからコントロールできるのは、Port to Port 機能を利用して QL5 では INPUT 1～32 を Dante Output 33～64 にパッチしている場合のみです(初期設定)。同様に、QL1 では INPUT 1～16 を Dante Output 17～32 にパッチしている場合のみです(初期設定ではパッチされていません)。
- 外部コンソールにて、該当する HA に正しくパッチされていないときに、該当チャンネルの A.GAIN ノブ表示が消えます。その場合は、Port to Port などのパッチを間違えていないか確認してください。
- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、シーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。
 - ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。
 - CL V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーフをかけておくことをおすすめします。
- CL V2.0, V3, V4.0, QL V3, V4.0 ファームウェア対応のファイルコンバーターV3.0.0 を準備しています。

V3.11

V3.10 の改善点

- USB メモリーを使って Dante ファームウェアをアップデートできるようになりました。
- CL と QL のアップデート用ファイルを同一名(*「C-MD1.BIN」)から別名に変更しました。これにより、誤ったファイルでのアップデートを防ぎます。
- USB メモリーを認識しないときに手動でリマウントできるようになりました。

V3.11 で修正した不具合

- HELP ファイルをロードしても、電源を入れ直すと HELP データが本体メモリーから消えてしまう不具合を修正しました。
- フォーカスでフェーダーをオフ(リコールから除外)にしている場合に、シーンリコールするとそのフェーダーがリコール時の位置で止まろうとしてしまう不具合を修正しました。
- WORD CLOCK 画面で間違って DANTE SLAVE と表示される場合がある不具合を修正しました。

V3.10

- 1 台の RSio64-D は、最大 2 台の CL/QL/R Remote からリモートコントロールできます。
- 1 台の RMio64-D は、最大 6 台の CL/QL/R Remote からリモートコントロールできます。
- 1 台の Rio/Ri/Ro は、R Remote が動作している最大 2 台のコンピューターからリモートコントロールできます。また別途 4 台の CL/QL からリモートコントロールできます。

V3.10 の新機能

- RSio64-D のコントロールに対応しました。
- 対応するサードパーティー製機器の HA(ヘッドアンプ)をコンソールからリモートコントロールできるようになりました。
- カスケード接続に関する機能を追加しました。
- モノラルタイプのインプットチャンネルのパン設定を CENTER NOMINAL、LR NOMINAL から選択できるようになりました。
- L-MONO、R-MONO、LR-MONO の入力信号処理の変更により、PAN モードや PAN ノブの設定が適切に切り替わるようになりました。

詳しくは [QL5/QL3/QL1V3.10 追補マニュアル](#)をご参照ください。

改善点

- USB メモリーを使って Dante ファームウェアをアップデートできるようになりました。
- CL と QL のアップデート用ファイルを同一名(*「C-MD1.BIN」)から別名に変更しました。これにより、誤ったファイルでのアップデートを防ぎます。
- USB メモリーを認識しないときに手動でリマウントできるようになりました。

修正した不具合

- レベル差がある奇数/偶数の MIX バスや MATRIX バスをリンクしてステレオバスとして使用する場合、リンクしたときに同じレベルにならない不具合を修正しました。
- カレントシーンに GPI OUT を設定していると、PREVIEW モードでシーンをリコールしたときに GPI が動作してしまう不具合を修正しました。
- シーンをストアした後でそのシーンに GPI OUT を設定すると、ライブラリーをリコールしたときにも GPI OUT が出力されてしまう不具合を修正しました。

- NUAGE Workgroup Manager のメンバーになっている RMio64-D が QL から操作できるように見えてしまう不具合を修正しました。(実際には、NUAGE Workgroup Manager のメンバーになっている間、QL から操作できません。)

既知の不具合

- Dante Controller で QL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で QL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが QL シリーズからできません。
- HELP ファイルをロードしても、電源を入れ直すと HELP データが本体メモリーから消えてしまう不具合が確認されました。この不具合を回避するためには、お手数ですが HELP ファイルを 2 回続けてロードしてください。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- 以下のデバイスラベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。

Y###-*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字) の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字 または小文字)、数字、-(ハイフン) が使用可)

Y を含めて 31 文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###-で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。

- QL V1.08 以降ファームウェアにて、Port to Port 機能を利用して QL シリーズ内蔵 HA を R シリーズのように外部 QL シリーズまたは CL シリーズ(ファームウェア V2.03 以降)からコントロールする場合は、以下の点にご注意ください。
 - 内蔵 HA を外部コンソールからコントロールできるのは、Port to Port 機能を利用して QL5 では INPUT 1 ~ 32 を Dante Output 33 ~ 64 にパッチしている場合のみです(初期設定)。同様に、QL1 では INPUT 1 ~ 16 を Dante Output 17 ~ 32 にパッチしている場合のみです(初期設定ではパッチされていません)。
 - 外部コンソールにて、該当する HA に正しくパッチされていないときに、該当チャンネルの A.GAIN ノブ表示が消えます。その場合は、Port to Port などのパッチを間違えていないか確認してください。
- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、シーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。

- ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。

- CL V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーフをかけておくことをおすすめします。

- CL V2.00, V3.00, V3.10, QL V3.00, V3.10 ファームウェア対応のファイルコンバーターV3.0.0 を準備しています。

V3.01 V3.02

新機能

- 5.1 サラウンドパンニングに対応しました。
- サラウンドミキシングに加え、シンプルなサラウンドモニタリング機能に対応しました。
- プレミアムラックに定番のバスコンプレッサー (Buss Comp 369) を追加しました。
- MIX/MATRIX バスに送られる信号から特定チャンネルの信号だけを抜くミックスマイナス機能に対応しました。
- Frame Delay 機能が追加され、DELAY SCALE 画面でフレームが選べるようになりました。
- GEQ RACK / EFFECT RACK で 8 バンド PEQ が選択できるようになりました。
- EQ チューニングをサポートするリアルタイムアナライザー (RTA) を搭載しました。
- USER DEFINED キーに 4 つのバンクを導入しました。
- リコールセーフ、フォーカスリコール、グローバルペーストの設定項目に DCA が追加されました。
- User Defined Knobs からのエフェクト/パラメーターコントロールに対応しました。
- RMio64-D のコントロールに対応しました。
- チャンネルリンクの設定がアウトプット側でも行えるようになりました。
- 内蔵オシレーターの ODD/EVEN で異なる周波数のサイン波を設定できるようになりました。
- ステレオインプットチャンネルに入力された信号をワンアクションでモノラル変換できるようになりました。
- SENDS ON FADER 時に METER 画面で全チャンネルのセンド量が確認できるようになりました。

- Dante Controller を使わずに、タッチスクリーンから Preferred Master 設定が行えるようになりました。
- ユーザーレベル設定のパラメーターとして DANTE SETUP を追加しました。
- Dante ネットワークが SECONDARY に変わったときに、タッチスクリーンのステータスインジケーターに表示されるようになりました。
- Fader Cue Release 機能が追加されました。
- タップテンポ ポップアップ画面にディレイ値を表示するようになりました。
- DCA グループのミュート対象を一時解除できるようになりました。
- USER DEFINED キー、USER DEFINED ノブと MIDI のコントロールチェンジに割り当てできる機能が追加されました。
- QL シリーズで検出/パッチできる Dante 機器として、Focusrite RED NET4、RED NET MP8R を追加しました。
- 読み出し専用のシーンメモリーを作成できるようになりました。
- Stereo/Mono バスマスター、Mix バスマスターおよび Matrix バスマスターを DCA グループに割り当てることができるようになりました。

詳しくは [QL5/QL1 リファレンスマニュアル](#)をご参照ください。

[ヘルプファイル](#) が V3 になりました。ヤマハプロオーディオウェブサイトからダウンロードしてお使いください。

改善点

- V1.08 で Dante オーディオネットワーク設定も含めて初期化およびファームウェアアップデートしたときに、Preferred Master の設定がオンになるようにしました。また、この設定がコンソール本体の設定変更や再起動では変わらないようにしました。この初期設定により、CL や QL のワードクロック設定を Dante 以外に変更した場合、そのコンソールが優先的に Dante ネットワークのクロックマスターとなりクロック同期エラーを防ぐことができます。また、常時起動させる機器の Preferred Master のみをオン(他をすべてオフ)にして、マスターを明示的に指定することもできます。

修正した不具合(V3.02)

- DCA グループでミュートしたときに、同じチャンネルを MUTE グループやチャンネルでミュートしている場合、MUTE グループおよびチャンネルミュートが無効になる不具合を修正しました。
- フェーダー値が-132dB になっているモノラル チャンネルにチャンネルライブラリーをリコールすると、そのチャンネルのパンがバランスとして動作してしまう不具合を修正しました。

修正した不具合(V3.01)

- USER SETUP の GAIN KNOB FUNCTION を DIGITAL GAIN に設定している場合に、シーンのストア/リコール、USER DEFINED キーのバンク切り替え、コンソールの再起動などを行うと ANALOG GAIN に戻ってしまう不具合を修正しました。

修正した不具合(V3.00)

- ごくまれに"_Kernel_sysdwn()"と表示され、システムダウンしてしまう不具合を修正しました。
- R シリーズ 16 台以上と Dante-MY16-AUD が同じ DANTE ネットワークにいるときや、4 台のコンソールから 3 台以上の R シリーズをすべて相互マウントしているときに、"No Response from I/O DEVICE."や"No Response from External HA."が表示される不具合を修正しました。
- ステレオインプットチャンネルの片方(ST IN L または ST IN R)のみパッチしたときに、HA コントロールが制限される不具合を修正しました。
- 複数台の CL/QL シリーズから HA をリモートしたときに、WITH RECALL を設定していない CL/QL シリーズでは操作した値が戻されて、AG→DG LINK が正常に機能しない不具合を修正しました。
- 複数チャンネルでチャンネルリンクを組んだときに、Dynamics1 および 2 で THRESHOLD 以外のパラメーターが正常に機能しない不具合を修正しました。
- 初期状態で自動マウントされている R シリーズにおいて、Dante ネットワークとのパッチが行われていても音声が出力されない不具合を修正しました。
- GPI IN にシーンをストアする機能を割り当てたときに、SCENE STORE ポップアップ画面でタイトルを入力する操作がタッチスクリーンでしかできない不具合を修正しました。
- GPI IN にヘルプ機能を割り当てたときに、ラッチ設定にしてもアンラッチとして動作していた不具合を修正しました。なお、GPI IN は画面上の操作子に対してヘルプを直接呼び出すことができません。
- レコーダーでソングを削除してもソングファイルリストから消えない不具合を修正しました。

既知の不具合

- Dante Controller で QL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で QL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが QL シリーズからできません。
- コンソールに挿入した USB メモリーに再生可能なファイルがなく、レコーダー画面のソングリストに何も表示されていない場合は、StageMix の操作で録音を開始することができません。その場合は、コンソールの操作で一度録音するなどして再生ファイルを表示させてから、StageMix を操作してください。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。

- 以下のデバイスラベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。

Y###-*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字) の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字 または小文字)、数字、-(ハイフン) が使用可)

Y を含めて 31 文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###-で示される ID が R シリーズ間でも重複しないようにしてください。

- QL V1.08 以降ファームウェアにて、Port to Port 機能を利用して QL シリーズ内蔵 HA を R シリーズのように外部 QL シリーズまたは CL シリーズ(ファームウェア V2.03 以降)からコントロールする場合は、以下の点にご注意ください。

内蔵 HA を外部コンソールからコントロールできるのは、Port to Port 機能を利用して QL5 では INPUT 1~32 を Dante Output 33~64 にパッチしている場合のみです(初期設定)。同様に、QL1 では INPUT 1~16 を Dante Output 17~32 にパッチしている場合のみです(初期設定ではパッチされていません)。

外部コンソールにて、該当する HA に正しくパッチされていないときに、該当チャンネルの A.GAIN ノブ表示が消えます。その場合は、Port to Port などのパッチを間違えていないか確認してください。

- カスタムフェーダーバンクの設定は、ユーザー設定に含まれているだけでなく、シーンデータにも含まれています。ログインしているユーザーや、読み込んだデータのタイプやバージョンによって、呼び出されるカスタムフェーダーバンク設定が異なりますので、以下の点にご注意ください。

- ALL タイプのコンソールデータを Administrator でロードすると、セーブされていた Administrator のカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。Guest や他のユーザーで ALL データをロードすると、セーブされていたカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定が呼び出されます。

- CL V1.70 以前で保存した ALL データをロードした場合、シーンにはカスタムフェーダーバンク設定が含まれていないため、ロードしたときのカレントシーンのカスタムフェーダーバンク設定がすべてのシーンに適用されます。したがってこの場合は、ALL データをロードする前にユーザーを切り替えたりしてカスタムフェーダーバンクを希望する設定にしておくか、カスタムフェーダーバンクにリコールセーフをかけておくことをおすすめします。

- CL V1.70, QL V1.01 ファームウェア対応のファイルコンバーター V2.3.0 で作成したファイルを QL V3.0 ファームウェアでも使用できます。なお、V3.0 の設定ファイルを他の機種へコンバートすることはできません。

V1.08

新機能

- QL ファームウェア V1.08 に対応しました。

修正した不具合

- エフェクトタイプとして M.BAND DYNA. または M.BAND COMP. が選ばれているときに、パラメーター TOTAL を設定するノブを押しながら回して 0.1dB 単位で変更しても、出力信号が 1dB 単位で変化する不具合を修正しました
- リコールセーフに設定した入力チャンネルの HA パラメーターが、SCENE000 をリコールしたときに、リコールセーフの対象にならない不具合を修正しました。
- リコールセーフを設定しているチャンネルのフェーダーを操作中に、シーンリコールすると、フェーダー位置にずれが生じることがある不具合を修正しました。
- エフェクトタイプとして STEREO DELAY や ECHO が選ばれているときに、R チャンネルのディレイタイムが固定される不具合を修正しました。

既知の不具合

- Dante Controller で QL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で QL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが QL シリーズからできません。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- 以下のデバイスラベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。

Y###-*****

は 0 ~ 9, A ~ F(大文字) の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字 または小文字)、数字、-(ハイフン) が使用可)

Y を含めて 31 文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###-で示される ID が R シリーズ間でも重複しないようにしてください。

- QL V1.08 ファームウェアにて、Port to Port 機能を利用して QL シリーズ内蔵 HA を R シリーズのように外部 QL シリーズまたは CL シリーズ(ファームウェア V2.03 以降)からコントロールする場合は、以下の点にご注意ください。

・内蔵 HA を外部コンソールからコントロールできるのは、Port to Port 機能を利用して QL5 では INPUT 1 ~ 32 を Dante Output 33 ~ 64 にパッチしている場合のみです(初期設定)。同様に、QL1 では INPUT 1 ~ 16 を Dante Output 17 ~ 32 にパッチしている場合のみです(初期設定ではパッチされていません)。

・外部コンソールにて、該当する HA に正しくパッチされていないときに、該当チャンネルの A.GAIN ノブ表示が消えます。その場合は、Port to Port などのパッチを間違えていないか確認してください。

V1.07

新機能

- ヘルプ機能に対応しました。
ヘルプファイルをヤマハプロオーディオウェブサイトからダウンロードしてお使いください。

改善点

- 本体を工場出荷時の状態に初期化したときに、CL や QL を複数台使用するシステムで初期設定のままでもワードクロック同期するように、ワードクロックの初期値を DANTE 48k としました。
- Dante オーディオネットワーク設定も含めて初期化およびファームウェアアップデートしたときに、Preferred Master の設定がオンになるようにしました。この設定は、コンソール本体の設定変更や再起動では変わらず、必要に応じて Dante Controller でオフにすることができます。この初期設定により、CL や QL のワードクロック設定を Dante 以外に変更した場合、そのコンソールが優先的に Dante ネットワークのクロックマスターとなりクロック同期エラーを防ぐことができます。また、常時起動させる機器の Preferred Master のみを Dante Controller でオン(他をすべてオフ)にして、マスターを明示的に指定することもできます。
- バンクセレクトキーで入力系チャンネルから出力系チャンネルに変更したときに、SELECTED CHANNEL VIEW 画面の SEND フィールドが MIX タブから MATRIX タブに変わります。その後、入力系チャンネルに戻ったときに MIX タブが表示されるようになりました。
- センズオンフェーダーセクションの MIX/MATRIX バスキーを押すと連動して、SELECTED CHANNEL VIEW 画面の SEND ノブに[TOUCH AND TURN]ノブで操作できるピンク色の枠が表示されるようになりました。
- 初期化した状態で、I/O デバイス#1 の OUTPUT PATCH 画面に STEREO チャンネル L/R がアサインされるようになりました。
- Ro8-D の SYNC、SYSTEM のインジケータに対応しました。

修正した不具合

- Port to Port 機能を利用して、QL シリーズ内蔵 HA を R シリーズのように外部 QL シリーズまたは CL シリーズ(ファームウェア V2.03 以降)からコントロールする場合における下記の不具合を修正しました。
 - ・内蔵 HA 設定のリコールにて、外部コンソールから With Recall をオンにできなかった不具合を修正しました。
 - ・入力チャンネルライブラリーをリコールしても、該当 HA 設定を正しくリコールできなかった不具合を修正しました。
- ユーザーレベルの MIXER SETUP を OFF にしていると、外部から DANTE PATCH を変えたときに、Rio の HA REMOTE が機能しない不具合を修正しました。

- ゲストでログインしたときに、ユーザーレベルの CH OPERATION や USER DEFINED キーに割り当てた RECORDER の DIRECT PLAY が正しく設定されないことがある不具合を修正しました。
- リンクグループのリンクパラメーターの変更が別のグループにも適用されてしまう不具合を修正しました
- グローバルペーストにて、ゲインコンペンセーションがオンからオフになるようペーストしたときに、ゲインの設定値が正しくペーストされない不具合を修正しました。

既知の不具合

- Dante Controller で QL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で QL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが QL シリーズからできません。
- Dante PRIMARY/SECONDARY 端子に Dante 機器をつながない状態で REDUNDANT/DAISY CHAIN の設定を切り替えると、音声信号が送出されなくなります。Dante 機器をつなぐか、QL シリーズの再起動で送出されるようになります。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。
- 以下のデバイスラベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。

Y###-*****

は 0 ~ 9, A ~ F(大文字) の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字 または小文字)、数字、-(ハイフン) が使用可)

Y を含めて 31 文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###-で示される ID が R シリーズ間でも重複しないようにしてください。

- QL V1.07 ファームウェアにて、Port to Port 機能を利用して QL シリーズ内蔵 HA を R シリーズのように外部 QL シリーズまたは CL シリーズ(ファームウェア V2.03 以降)からコントロールする場合は、以下の点にご注意ください。

・内蔵 HA を外部コンソールからコントロールできるのは、Port to Port 機能を利用して QL5 では INPUT 1 ~ 32 を Dante Output 33~64 にパッチしている場合のみです(初期設定)。同様に、QL1 では INPUT 1 ~ 16 を Dante Output 17~32 にパッチしている場合のみです(初期設定ではパッチされていません)。

・外部コンソールにて、該当する HA に正しくパッチされていないときに、該当チャンネルの A.GAIN ノブ表示が消えます。その場合は、Port to Port などのパッチを間違えていないか確認してください。

V1.02

改善点

- QL V1.01 ファームウェアでは初期化したあと、再起動するように指示するメッセージが表示されましたが、再起動が不要になりました。ただし、Dante オーディオネットワーク設定を初期化する場合は、Dante デバイスの接続をすべてはずしてから行ってください。

修正した不具合

- VIRTUAL(以前設定されて、現在は Dante オーディオネットワークに存在していない)I/O デバイスを再接続した場合に、DANTE PATCH が反映されないことがある不具合を修正しました。
- SELECTED CHANNEL VIEW 画面の INSERT フィールドにある IN インジケーターが点灯しない不具合を修正しました。
- ダイナミクス の KEY IN SOURCE SELECT 画面でキーイン信号の MIX OUT13~16 のメーターが表示されない不具合を修正しました。
- ラックが何もマウントされていないときに、プレミアムラックがマウントされている設定ファイルをロード(または QL Editor から同期)しても、パッチが反映されない不具合を修正しました。

既知の不具合

- Dante Controller で QL シリーズに DVS(Dante Virtual Soundcard)をパッチしている状態で QL シリーズを再起動してもパッチが再現されないことがあります。その場合は Dante Controller で DVS を再度パッチしてください。なお、Windows 版の 3.2.0 より前の DVS では、41CH 以降のパッチが QL シリーズからできません。
- Dante PRIMARY/SECONDARY 端子に Dante 機器をつながない状態で REDUNDANT/DAISY CHAIN の設定を切り替えると、音声信号が送出されなくなります。Dante 機器をつなぐか、QL シリーズの再起動で送出されるようになります。
- 一部のネットワークスイッチで、QL シリーズなどの Dante 機器が正常に 1Gbps でリンクしないことがあります。これはネットワークスイッチが起動時に行なう自己診断機能などに起因します。各機器のリンク速度は Dante Controller の Device Status 画面にある Link Speed で確認できます。10 または 100Mbps と表示されていた場合は、該当機器のネットワークケーブルを抜き差しすることで 1Gbps でリンクするようになります。1G かどうか QL シリーズの DANTE の 1G の LED でも確認できます。この問題を回避するためには、Dante 機器より先にネットワークスイッチが起動するようにしてください。

お知らせ

- Dante Controller でレイテンシーを設定する場合は、送信機器と受信機器で大きい(遅い)方の設定が有効になります。

- 以下のデバイスラベルは SUPPORTED DEVICE として認識するために使用します。

Y###-*****

は 0 ~ 9、A ~ F(大文字) の 16 進数 3 桁(000 ~ FFF)

* は任意の文字(英字(大文字 または小文字)、数字、-(ハイフン) が使用可)

Y を含めて 31 文字まで対応しています。

R シリーズについては Y###-で示される ID が大きさの違う R シリーズ間でも重複しないようにしてください。

- QL V1.02 では、現在 NXAMP(NXDT104)を NXAMP として認識してマウントすることができません。QL シリーズの DEVICE LIST に UNSUPPORTED として表示されますが、I/O 数を設定してマウントすることで QL シリーズからパッチすることができます。
- QL V1.02 ファームウェアにて、Port to Port 機能を利用して QL シリーズ内蔵 HA を R シリーズのように外部 QL シリーズまたは CL シリーズ(ファームウェア V2.0 以降)からコントロールする場合は、以下の点にご注意ください。

-内蔵 HA を外部コンソールからコントロールできるのは、Port to Port 機能を利用して QL5 では INPUT 1 ~ 32 を Dante Output 33~64 にパッチしている場合のみです(初期設定)。同様に、QL1 では INPUT 1 ~ 16 を Dante Output 17~32 にパッチしている場合のみです(初期設定ではパッチされていません)。

-外部コンソールにて、該当する HA に正しくパッチされていない A.GAIN ノブを操作したときに、該当チャンネルの A.GAIN ノブ表示が消えます。その場合は、Port to Port などのパッチを間違えていないか確認してください。

-内蔵 HA 設定のリコールは、その QL シリーズのシーンリコールでのみ可能です。外部コンソールで With Recall をオンにできません。

-インプットチャンネルライブラリーをリコールしても、該当 HA 設定を正しくリコールできません。

V1.01

- 初期リリースバージョン(プレインストール版)